

# 連携医院のご紹介

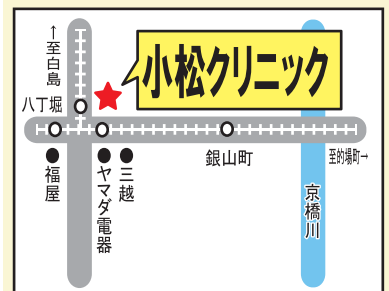
今回は、皆様に満足していただける医療を目指しておられる産婦人科内科小松クリニックの小松 正伸院長です。



小松院長

## 産婦人科・内科 小松クリニック

〒730-0017  
広島市中区鉄砲町10-18  
電話/082-227-3777  
院長/小松 正伸  
診療科/産婦人科・内科



### ○いつ開業されましたか。

平成8年4月に開業し、今年で20年になります。開業するにあたって、利便性のよい広島市中心部の場所を選びました。このため午前中は安佐南区や安佐北区方面の方が来られて、午後からは近隣の仕事帰りのお勤めの方や、放課後の学生さんが来られます。

### ○開業されてから今までのことを教えてください。

開業当初は以前勤務していた病院と違ってお産や手術ができず、クリニックでどの状態まで治療したら良いか戸惑いました。現在は夜間に状態が悪くなりそうな人は早めに病院に紹介するなど、役割分担を考え患者さんに安心してもらうようにしています。また、女性疾患が対象なのでプライバシーには特に配慮しています。

### ○開業医のやりがいは何ですか。

個人と個人の付き合いができて、コミュニケーションが取れることです。例えば、検査の結果が悪くても人間と人間の関係が築けているので、結果を単に伝えるのではなく、今後の対応など話をしっかりできます。

### ○県病院へ一言。

産科はお産で、婦人科は手術で、生殖医療科は妊娠でお世話になっています。困った時にいつでも受け入れていただき、助かっています。さらに診察の結果を詳しく連絡してもらえるので、来院された時に、いただいた情報を基に説明し、診察できます。私も患者さんも安心できます。



落ち着いた雰囲気の小松クリニック内装

### 【取材後記】

院長先生の確かな治療方針と穏やかな人柄に加えて、気持ちが落ち着く柔らかな室内照明と緻密に計算された観葉植物・応接セットの配置などにより、患者さんの気持ちに寄り添っているクリニックと感じました。

# 県立広島病院 広報誌 もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。  
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様にあわれ信頼される病院をめざします



● 専門診療医による得意治療を紹介いたします。

## 胸・肩・上腹部の痛み! もしかして心臓?

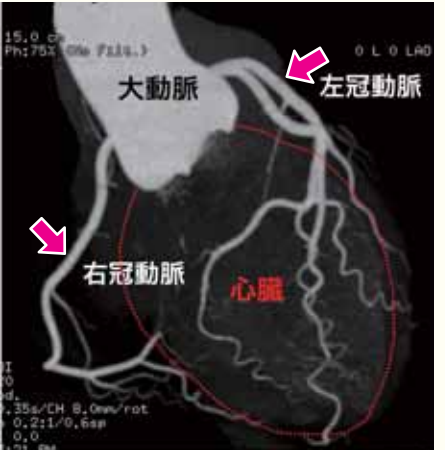
循環器内科



脳心臓血管センター長  
(兼)循環器内科主任部長  
上田 浩徳

### ■虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)とは

心臓は生命を維持するために大動脈を通して全身に血液を供給する重要なポンプの働きをしています。しかし、心臓もまた血液が供給されなければ、ポンプとして活躍できません。心臓に酸素と栄養を送る血管は心臓から出たすぐの大動脈から心臓をとりまくように枝分れしています。この血管は「冠状動脈(冠動脈)」と呼ばれ、心臓をエンジンにたとえると、ガソリンを送り込むパイプのようなものと思ってください。左右に一本ずつあり、左冠動脈はさらに2本に分かれます。(右画像参照)



冠状動脈(冠動脈)

この冠動脈が狭くなると「狭心症」を、閉塞すると「心筋梗塞」を発症し、心臓が本来のポンプとしての機能を果たせなくなります。その危険信号として自覚するのが「胸痛」です。

「胸痛」といっても、自覚の度合い、痛みの場所や痛みの出方など様子は様々です。例えば、持病に糖尿病があれば、ほとんど自覚症状がない場合があります。典型的には胸部を締め付けられるような圧迫感ですが、肩が凝った感じや肩に重しを置いたような感じ、胃の痛みに似た症状、左腕のだるさや首を絞められるような感じといった自覚症状があります。

冷や汗を伴うような15分以上持続する胸部圧迫感は「急性心筋梗塞」の可能性があるので、すぐに救急車を呼んでください。また、虚血性心疾患の発症リスクは高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満、喫煙といった生活習慣と関連する因子が主な危険因子となっていますので、日頃から主治医の先生といっしょに管理していくことが、心臓を守ることに重要で

### 胸痛は様々です



これから冬にかけて心筋梗塞の発症は増加していきます。特に、気温の急激な低下は体に大きなストレスがかかり、血管の収縮と血圧の急激な上昇が生じ、冠動脈に存在する動脈硬化が裂けることで血の固まり(血栓)ができて詰まっています。

早朝、外出時、脱衣場や風呂場などでの体温管理や室温には十分気をつけてください。

次頁に続きます→

## 県立広島病院からのお知らせ

### 11月のがんサロン

- 開催日 平成28年 11月 10日(木)
- 時間 14:00~15:30
- 場所 新東棟3階 ラウンジ
- 内容 コンサート
- 講師 土井 由美子さん 楠木 慶さん
- 対象 悪性腫瘍(がん)で通院または入院されている患者さん 及び そのご家族
- 問合せ先 地域連携センター 総合相談・がん相談室  
TEL:082-256-3561 (担当:佐々木)



昨年のコンサートの様子

### 緩和ケア 看護師研修スキルアップ研修

- 開催日 平成29年 1月 18日(水)・19日(木)の2日間
- 時間 9:00~16:30
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- 申込期間 平成28年 12月 6日(火)~20日(火) 必着
- 参加費 5,000円(資料代)
- 対象 次の①②③④⑤のいずれかと、⑥の要件を満たす者
  - 平成12年度から平成15年度に広島県看護協会が実施した「緩和ケアナース育成研修」の修了者
  - 平成16年度から平成18年度に緩和ケア支援センターが実施した「緩和ケアナース育成研修(専門コース)」の修了者
  - 平成19年度から平成24年度の緩和ケア看護師研修(中級コース)の修了者
  - 平成25年度から平成28年度緩和ケア看護師研修(実践コース)の修了者
  - 緩和ケアに関する専門看護師、認定看護師(選考あり)
  - 全課程(2日間)をすべて出席できる者

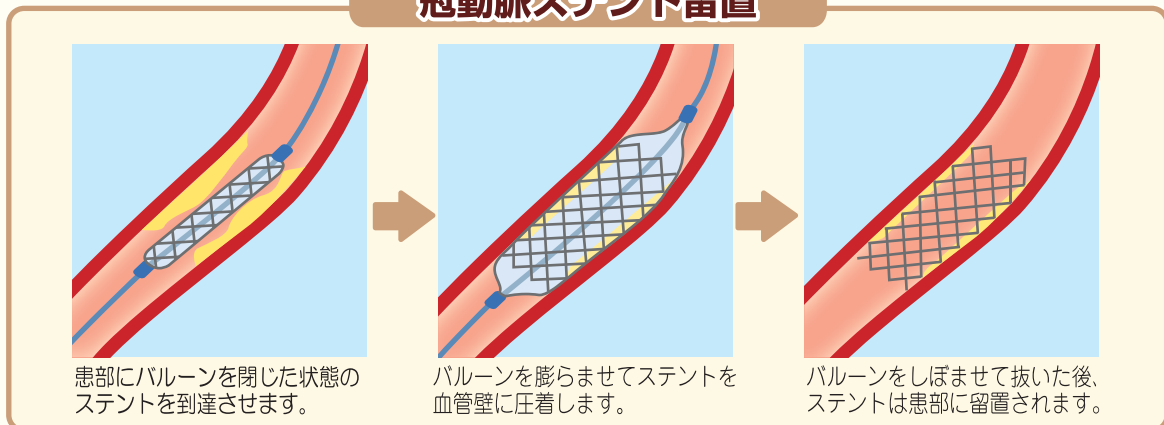
問合せ先 広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア支援室  
※詳細は『広島がんネット』ホームページでご確認下さい。  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/>

## ■カテーテル治療について

カテーテル治療とは、細長いカテーテル(中空の管)を体外(足や手の動脈)から入れ、コントロールしながら、冠動脈まで進め、患部を治療する方法です。病変をバルーン(風船のようなもの)で広げたり、ドリルのようなもので削ったりします。最終的に多くは金属の網目状の筒でできたステントで治療を行います。具体的には冠動脈の狭くなったり、ふさがれた患部にバルーンを閉じた状態のステントをワイヤーに沿わせながら血管内に送り込み、患部に到達したら、内側からバルーンを膨らませて広げて治療をします。(下絵参照)

ステントは患部に広がった状態で留置されます。崩落しそうなトンネルを内側から補強し交通が再開出来るようにする工事に似た手術です。細長いカテーテルを体外からコントロールしながら行うため、胸を開ける外科治療に比べ体への負担は少なくてすみます。しかし、冠動脈に多数の病変が存在する場合や冠動脈の根元に近い部分の病変などではバイパス手術が適している場合もあります。

### 冠動脈ステント留置

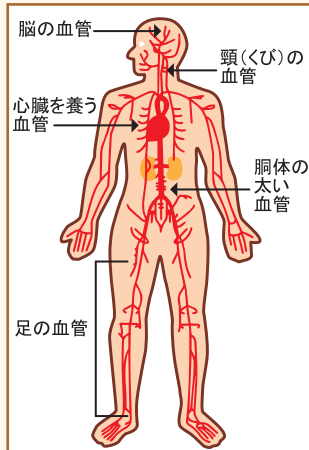


## ■進化する冠動脈ステント

虚血性心疾患のカテーテル治療は冠動脈ステントの開発によって飛躍的に進歩してきました。1980年代のバルーン拡張のみの時代から1990年代のベアメタルステント(金属のみのステント)の使用により、急性心筋梗塞の救命率は格段に上昇しました。しかし、再狭窄(ステントの内側に血管壁の組織が盛り上がり、再度狭くなること)という大きな問題があり、2000年代に登場したのが、血管壁の細胞の増殖を抑える薬が塗られた金属製の薬剤溶出ステントです。これにより、狭心症を再発してしまうケースは約20%程度から5~10%程度に減少しました。

今後、ステントの留置後、2~3年で溶けてなくなる乳酸ポリマーでできたステントが医療現場に登場します。小さな血管には向かないなど使用制限はありますが、血管内に残り続ける金属ステントに比べ、本来の血管に近い状態に戻せる可能性があります。これらのステントの特性と性能を知った上で、適応する病変を考え、うまく使い分けことが今後、重要になってきます。

## 脳心臓血管センター



動脈硬化は全身の血管病を引き起こします。

心臓の冠動脈の疾患についての話をしてきましたが、動脈硬化は全身のどの血管にも生じます。(左絵参照)

特に、虚血性心疾患の危険因子を多く持っている方は他の血管病(脳梗塞、頸動脈狭窄、鎖骨下動脈狭窄、腎動脈狭窄、下肢閉塞性動脈硬化症など)を発症することがよくあります。

当院では他の病院にない試みとして、循環器内科、心臓血管・呼吸器外科、脳神経外科・脳血管内治療科、脳神経内科の4科をセンター化し、合同でカンファレンスを開きながら全身血管病に対して最適な治療が提供出来るよう取り組んでいます。どの科に入院され治療をされても、全身の血管に何か生じた場合は4科が迅速に対処し、常に安心して、血管病の治療が受けられることが当センターの特徴です。



**脳心臓血管外来**  
毎週金曜日の午前中

全身の血管に多数問題があり御心配な場合は、かかりつけの先生に相談のうえ、脳心臓血管外来へ紹介予約をお願いします。

# 外科医の独り言 no.62

## — モニター婦人 —

テレビ局各社では番組を充実させるために視聴者モニターを募集しています。自宅でのテレビ局の番組を週1~2本程度視聴して、テレビ局に意見や感想を書いて送ると月数千円から1万円の謝礼が貰えます。また出版社や新聞社でも同様に書籍、新聞の内容を充実させるために読者モニターを募集しており、この場合もいくらかの謝礼が支払われるようです。

県病院の毎月発行の広報誌『もみじ』にも“厳しいモニター婦人”がおられます。もちろんこちらから特別に依頼したわけではなく、無報酬です。5年前、ちょうど「外科医の独り言」の連載が始まった時にたまたま入院されていて『もみじ』を手にとられたようです。

それ以来、私の中では「モニター婦人」と呼んでいます。退院後も毎月1回私の外来に受診され『もみじ』を持って帰られます。ご自宅に溜まったファイルは4冊になったそうです。そして最新のファイルを持参されてその中に受付で受け取った最新の『もみじ』を入れて帰られます。最近では何枚も『もみじ』を持って帰られているようなので尋ねてみると、かかりつけの開業医さんのところに持って行って待合室に置いて帰られるそうです。多くの人に読んでもらいたいという意図のようです。

その後も持って帰られる『もみじ』の部数が増え、婦人は近所にも配られているようです。有り難い事です。退院されて2年くらいたった頃に「もう大丈夫ですから3か月に1回の受診でもいいですよ、血液検査もお薬もかかりつけの先生にお願いしますから」と言っても5年経った現在も毎月来院されています。ご自宅に『もみじ』を送ってあげようかとも思ったのですが、それでは満足されないことはすぐにわかりました。モニターなので批評することが大事なのです。

とにかく婦人は「外科医の独り言」に詳しいのです。書いた本人が忘れていたのに昔に書いた

ことも良く覚えておられ「あれはよかった、わかりやすい、勉強になった」とお褒めの言葉も頂くことがあるのですが、ダメ出しもしょっちゅうです。「あれは私にはわからん」、「内容が難しすぎる」ある時には「こんなことを書かん方がいいよ」などとアドバイスを受けています。話を聞いていると「ウンチの話」がお気に入りなのかなと思いついて「ウンチの話」を続けて書いた時には何故かダメ出しをされました。

いまだにモニター婦人の良い、悪いの基準が十分につかみ切れていませんが、結局、話の内容が婦人にとって為になったかどうかが基準になっているのかもしれない。

先月は、なぜか昔のファイルを持参されて受診されました。そして私が昔書いた「外科医の独り言」を出して「先生、これはほんまに良かった、今でも何回も繰り返して読んでいます」と言われ、確かにその『もみじ』にはたくさんの書き込みと、婦人にとって重要な部分にはびっしりと線が引いてありました。なぜ今頃昔の『もみじ』なのかと聞こうとしましたが、その答えが怖くて質問できませんでした。

私の恐れていた言葉は「最近のは面白くない」だったのです。しかし、そのあとの一言でほっと救われたような気持ちになりました。婦人の話では、最近夜眠れなくなった時に昔の「外科医の独り言」出して読むとよく眠られるということでした。「外科医の独り言」の意外な効果にはびっくりです。

が、これからは毎月来院されるであろうモニター婦人をがっかりさせないように書こうと気を引き締めています。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長) 板本 敏行(いたもと としゆき)

今年も

## 地域健康フォーラムを開催しました!



左より、当院の内視鏡内科平本部長、佐々木クリニックの佐々木先生、当院の消化器外科池田部長

10月1日(土)、当院にて『便秘と大腸がん』をテーマに第11回地域健康フォーラムを開催いたしました。

当院内視鏡内科の平本部長、消化器外科の池田部長、さらには広島市南区医師会より佐々木内科クリニックの佐々木先生が講師として、便秘の診断や薬、大腸がんの治療方法、内視鏡検査の内容などについて講演し、115名の地域の方々にご参加くださいました。

当院と広島市南区医師会は、広島市南区地域保健対策協議会と協力し、地域住民の皆様の健康増進に寄与するテーマで毎年10月の第一土曜日に地域健康フォーラムを開催しております。次回も沢山のご参加をお待ちしております。